

---

## ワークショップ「き」組 ニュース

第1号 2022年5月20日 発行

<https://kigumi.jp/>

---

### ● ごあいさつ

ワークショップ「き」組は、来年で20歳になります。

おかげさまで、2003年の発足以来「山と職人と住まい手を結ぶ」家づくりの会として「山には植林できる費用を還し」「職人には腕をふるっていただき」「適正な価格で住まい手に提供する」活動を続けて参りました。

ワークショップとは「協働作業」の意味です。「き」組の「き」は、山の樹木である木、職人の心意気の気、きれいな空気の気から来ています。

長い時間をかけて育った木を大切に使い、つくり手と住まい手の「共存共栄」を目指して、豊かで快適な家づくりを実践しています。

これまでに、つくり手の育成のための「木組のデザインゼミナール」を19期続けてまいりましたが、20年目を機会に不定期ながら「メールマガジン」を発信することになりました。最初にメンバーの紹介や「木組ゼミ」の情報などを掲載したいと思います。どうぞお付き合いください。

／代表理事 松井 郁夫

<https://matsui-ikuo.jp/>

---

### ●メンバー紹介

「天竜T.S.ドライシステム協同組合」森下幸司（静岡県）

<https://www.ts-dry.com/>

#### ・トレーサビリティについて

天竜T.S.ドライシステム協同組合では、木材の品質を維持する為、天竜川流域の木材を切り旬の「秋冬の伐採」と新月に木を伐ることで、品質を向上できる「月齢伐採」という基準を定めて木材を調達しております。

その為に欠かせないのが、伐った期日と場所と乾燥の期間を明記した、生まれも育ちもわかる「トレーサビリティシステム」です。

伐採した場所、伐採日、葉枯らし期間、製材日、天然乾燥期間がわかるように「バーコード」を使ったシステムを15年以上前から構築し、製品を管理・出荷しております。これにより、川上（山林）から川下までが繋がるようになり、

山に植林費用を還し、木の循環の仕組みを支え、建て主様にもどこの山で何時伐採したのかを伝えられる木材の提供ができるようになっていきます。

木は植えて育てれば、永久に無くならない循環資源となります。地球環境に適合した「トレーサビリティ」の仕組みを実践する「天竜T.S.ドライシステム協同組合」の木材をお使いください。

#### 「キューブワン・ハウジング」細沢龍雄（西東京）

<http://www.cubeone.co.jp/>

##### ・施工について

この会の結成以来、これまでにワークショップ「き」組の建物は、松井郁夫建築設計事務所との協働で30棟以上建設しており、建主さんには喜ばれております。

去年は、中野区と小金井の「木組の家」を竣工いたしました。

現在、東京の小平市にて江戸時代から残る古民家の改修工事を行っています。新築工事とは勝手が違うため少し時間はかかりますが、この先も何世代と受け継がれていく建物になるよう、木組みの家で培った技術を活用して丁寧に仕事を進めております。

随時「き」組と「松井事務所」のHPにて報告しておりますのでご覧ください。

#### 「田中製材工業 / 俊建築設計室」田中俊章（長野県）

<https://www.tanakaseizai.jp/>

##### ・集客について

弊社は、長野県東御市で創業73年になる製材屋です。昨年4月より自社住宅事業部「キグミノイエ」をブランディングして本格始動しました。社内に専属の広報デザインスタッフを置き、SNSやブログを中心にホームページへのアクセスを増やす取り組みをおこなっています。

コロナ禍や働き方改革の影響を受け、移住者が急増しています。施工エリア内に軽井沢や蓼科、八ヶ岳の別荘地などがあることもあり、非常に多くのお問い合わせをいただくようになりました。受注も1年半先まで見通せる様になりました。

また、経産省事業再構築補助金の採択を受け、木育をテーマとした木の体験複合施設「ミマキウッドラボ」のオープンを今夏に予定しています。木工やDIYから木の良さを体験してもらうことにより、国産・地域木材の普及につなげます。また、その先の木の家に住みたいという需要にも応えます。

「石川設計」石川忠紀（東京都あきる野市）

<http://ishikawa-sekkei.life.coocan.jp/>

・近況報告

土地家屋調査士の資格を持っています。昨年から改めて民家について暮らし方や歴史など広い視点から学び始めており、今年は運営側として活動していますが、教わる側から教える側に立場が変わることで、新しい学びを得ています。

「中村建設」中村英基（埼玉県）

<https://www.naka-mura.com/>

・ご自宅の住心地について

ゼミでお世話になり自宅の設計をワークショップ「き」組のサポートで新築してからはや10年以上たちました。

3・11でわが町は震度6弱（正式）、自宅はだいぶ揺れたようですが、TVも倒れず壁などに損傷ありませんでした。

その後「き」組の家の施工例はありませんが、当時の大工二人は健在で、在来工法での新築工事をやりながら、少々骨のある修繕仕事もしています。引き続きよろしく願いいたします。

「タケワキ住宅建設」竹脇拓也（千葉県）

<https://takewaki-j.co.jp/>

・全国工務店協会の活動について

千葉県松戸市で工務店をしております。タケワキ住宅建設の竹脇と申します。弊社は父が45年程前に立ち上げて私は二代目になります。現在工務店を経営しながら、外部の活動としまして、「JBN・全国工務店協会」の理事等を務めております。

JBNとは15年前に工務店のサポートを主な目的として立ち上げられた工務店による団体で、現在全国で約2700社の地域工務店と関連事業者が加盟しております。活動内容としましては、脱炭素社会に向けた住宅の省エネ性能のあり方に対する提言や災害時の応急木造仮設住宅の建設の他、国や様々な地域からの情報を会員に伝え日常の業務に役立ててもらうことを行っております。

「菱田工務店」菱田昌平（長野県）

<https://hishidak.com/>

・ラステイックモダンについて

新型コロナウイルス感染拡大やロシアによるウクライナ侵攻など、近年では住宅業界を取り巻く環境もめまぐるしく変化しています。インターネットやSNS

の普及により、業界人はもちろんお施主様も手軽に様々な情報を取得することができるようになりました。また、技術の進歩に伴う各種法律の変更も時代の流れとして把握していかなければなりません。このように内的、外的様々な要因により、家づくりはこの数年でも大きく変化しています。

弊社ではその変化をしっかりと受け止めながら、大切な住まいづくりのパートナーに選んでいただいたお施主様に菱田工務店らしい住まいを提供しています。その最たるものが「Timber」と呼んでいるベルギーの伝統的な工法を採用した商品です。

代表の菱田が現地で体感（こっそり採寸）したベルギー民家の居心地の良さを探求し、作り上げました。これを一言で表現すると「ラスティック・モダン」。「ラスティック＝素朴」と「モダン＝現代的な新しさ」を融合させる、つまり木はもちろん、土や石、レンガといった一つ一つは素朴な素材を組み合わせることで現代的で飽きることのないデザインに仕上げます。

目まぐるしく変わる時代の中で変わらず良いと感じていただけるものは自然素材であり、手仕事だと考えています。ただ、伝統に固執し過ぎると時代の変化についていけなくなる時が来ます。伝統と革新をバランスよく織り交ぜる経営戦略もまさに「ラスティック・モダン」であると考えています。

「松下生活研究所 LLC.」松下修（熊本県）

<http://msk1985.social/>

#### ・コンサルタントの立場として

ワークショップ「き」組の「山と職人と住まい手を結ぶ」家づくりに賛同して参加しています。九州の森林地帯である宮崎県諸塚村、鹿児島県屋久島町、熊本県五木村などの林業振興に関り 30 年近くなりますが、一貫して山側からの木材活用を提案してきました。山で働く人が生きていける林業とは何か、木材流通の在り方をどうするか、山を大量生産で見るのではなく、農家林家の自伐的取組みのような生業で、その山ならではの生産の仕方や流通の取組があるように思います。経済林である木材の位置づけが主流である中で、その地域ならではの独自性を出した取組みの支援をしています。例えば、屋久島町庁舎建設に際してのコンセプトは、屋久島の地杉は大径木が取れないので、住宅用建材で計画し地元の大工・工務店で建築すること、また庁舎造りを契機に板材などの加工所を整備し展開することなどを策定しました。右往左往もありましたが、目的通り建設され、加工所で作った板材も全国に向けて展開しています。今後も、山と職人を結ぶコンサルタントとして、取り組んでいきたいと思っています。

「木村建設」木村祥悟（北海道）

<https://www.kiguminoie.net/>

#### ・北海道での取り組みについて

##### 『北限の木組に挑戦』

北海道で木組の家づくりを実践するにはいくつかの高いハードルがあります。冬季は氷点下 25℃を下回る極寒冷地であること、本州とは生息する樹種も異なるロシアに近い植生の上、川上と川下の連携が希薄で無垢の製材が流通しにくい環境であること、そして何より「開拓から 150 年」と歴史が浅いこと。

すべてが逆境とも言える環境の中で、木組の家を作る事はもちろん、そのニーズを作り出す事が課題としては大きいです。「木組の家」や「伝統構法」という言葉を聞いたこともない北海道の人々にとって、北海道の暮らしの豊かさに繋がることを証明しなければいけません。

寒冷地仕様にすることは技術的なことなので、木組と相性の良い透湿性の高い断熱材を選択し、吸放湿性を重視した工法を採用することでクリアできると考えています。

川上と川下の連携については、とにかく北海道中を走り回り、大工や木工家、製材業、林業、行政にも働きかけて近くの山の木で家を作ることの大切さを訴えかけています。少しずつではありますが、共感者や協働者が増えてきて、小さくても途切れない流れができつつあります。

北海道の豊かな自然の中に、川上から川下までの仲間と連携しながら木組の建築を作り、やがてそれが当たり前の風景のなることを目指して、開拓者さながらに挑戦し続けます。

#### ●木組ゼミ情報

##### 「美術講座」（第 1 回）静物デッサンについて（松井）

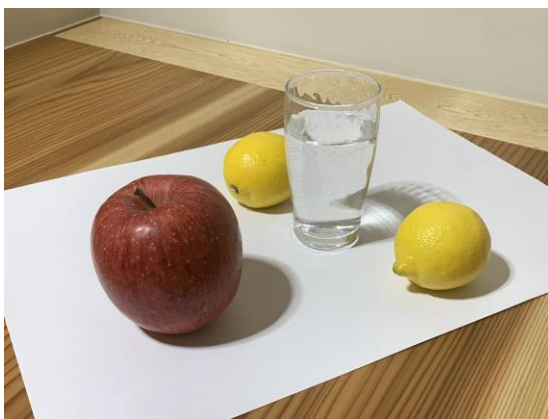
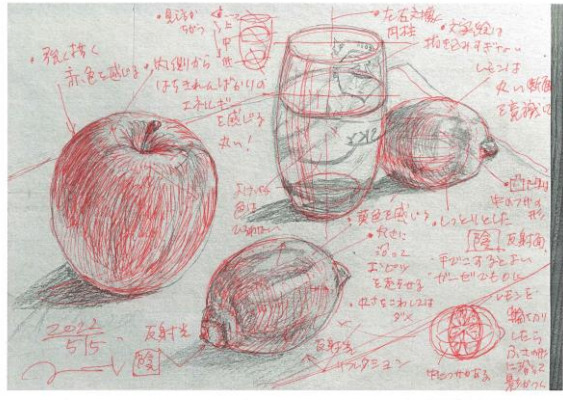
・美術も技術です。訓練すれば「美しさ」を習得できます。

今回は各自で用意した「静物」を描いていただきました。リモート講座なので、送られてきた「デッサン」を松井が一点ずつ添削しました。

まず、静物であるりんごとレモンと水の入ったコップを全体の構図を考えながら配置します。紙にも裏と表があつて鉛筆のノリが違います。

絵を描くには「光」と「陰影」を意識して立体感を出します。カゲには、そのものが落とす「影」と光が反射してできる「陰」があります。立体感の表現はこの光と影にかかっています。

リモート講座になったことで、一人一人のデッサンをじっくり指導することが出来ます。「美しい技術」を身に着けたい方は、次回の木組ゼミの「美術講座」にぜひご参加ください。



各自で選んだ静物

デッサンの添削途中

### 「理論講座」日本の伝統・「木造建築」を自分のものとする

(講師：岩崎駿介さん)

松井が師と仰ぎ、最も敬愛している岩崎駿介さんは、元横浜都市デザイン室長だった都市計画家で芸大の大先輩です。芸大卒業後に設計事務所を開設しますが、思うところあってアフリカ・ガーナの建築の教師となって日本を離れます。その後ハーバード大学を経て、当時横浜市長だった飛鳥田さんの横浜まちづくりに興味を持って日本に戻ります。この横浜・都市デザイン室長時代に、数々の横浜の街に美しいデザインを残し、筑波大学の教職も得ますが、世界の難民救済のために、日本国際ボランティア・センターを設立して多くの国を回り、「都市と地域」について深く考え「都市の住民は、地方の住民によって支えられている」ことに疑問を持ち、茨城県八郷で自給自足の生活を目指して奥さんと二人で自宅をセルフビルトで建て始めます。64歳で始めた「落日荘」は84歳の今も続けており、建築家協会賞を受賞されました。「木組のデザインゼミナール」では毎年お手伝いに来ていただいています。地球規模から考える、美しい家づくりのお話は、毎年開いている講座です。

松井郁夫 木組みゼミナール

美術・理論講座・ZOOM講演

日本の伝統

# 「木造建築」を、自分のものとする

セルフビルドについて

岩崎駿介

2022年4月17日(日曜日)

14:00-17:00



自己紹介・・・私の軌跡: 84年(大学卒業後: 約60年)

建築

都市デザイン  
(12年)

国際協力  
(22年)

建築  
(20年)

1963  
25歳

28

1968  
30

32

1970  
33

1979  
42

1982  
45

2001  
64

2021  
84



広島・料亭旅館「石亭」の共同設計

アフリカ・ガーナーで働く

ハーヴァート大学院で学ぶ

ボストン市役所で働く

横浜市役所で働く

国連のスラム担当課長になる

国際協力NGOを作る

自宅「落日荘」をセルフビルド



64歳の時、自邸  
**落日荘**  
を設計し、20年をかけてセルフビルドする



落日荘は、二人のセルフビルドで作っています



## ●書籍紹介

松井郁夫の著作がウエルパイン書店から出版されました。

「初めての人にもできる！木組の家絵本」と「初めての人にもできる！古民家再生絵本」シリーズは実務者が実践で使える手法を解説したイラスト集です。作品と言わず「仕事集」と呼んでいるこれまでの当事務所の実績をまとめた写真集「古民家のみらい」は、古民家の再生手法と実例を写真とともに解説しています。新築の木の家づくりの「美しい木組の家」は、山と職人との協働による木組の家づくりの写真集です。どちらもノウハウだけでなく見て楽しんでいただけます。持続可能な再生と新築の事例を、ぜひお手にとってご覧ください。詳しい解説は下記URLから、アマゾンで購入できます。

<https://onl.bz/EEyxHdi>

## ●編集後記

初めてのメルマガですが、いかがでしたでしょうか？通常のメルマガよりも写真を多く入れてみました。

木の建築を取り巻く環境は、コロナ禍の中ウクライナの戦火の影響を受けて目まぐるしく変わっています。その中でも日本の木組について発信していきたいと思います。

ワークショップ「き」組も20年を迎えてメンバーも頑張っています。ここは全国から「木組の家」づくりに参加されている山や工務店、設計者の集まりです。

ワークショップ「き」組の発足当時から続けている「木組のデザインゼミナール」は、設計者と山と職人をつなぎ協働できる仲間を増やす勉強会です。

「美術講座」では絵を書くことによって美しさを習得する、デッサンの添削を「理論講座」では講師の方々に「こだわりの家づくり」について語っていただきます。不定期の発行となりますが、これからもよろしく願い致します。

(松井郁夫)

---

本メールは、ワークショップ「き」組のメンバーや「木組のデザインゼミナール」受講生、お取引のあるお客様等名刺交換させていただいた方々にお送りしています。

アドレスの変更や配信停止をご希望の方はお手数ですがその旨返信ください。

---

一般社団法人 ワークショップ「き」組 事務局

〒165-0023 東京都中野区江原町1-46-12-102

(TEL) 03-3951-0703 (FAX) 03-5996-1370 (E-mail) [info@kigumi.jp](mailto:info@kigumi.jp)